

英語科学習指導案

日時 : 平成18年9月6日(水)

学級 : 3年B組

(男子15名 女子8名 計23名)

授業者 : 宮古市立田老第一中学校

島越 由美子

1 単元名 Unit 4 An American Rakugo-ka (東京書籍 NEW HORIZON English Course 3)

2 単元について

(1) 教材について

Unit4 は、英語落語を題材とし、日米の文化の違いを考えることを学習する内容となっている。Starting out では、落語について紹介する英語冊子で「扇子の使い方」を扱い、Dialog では、慎とカナダ人のエレンが週末の予定を話し、英語の落語を聞きに行くことになるという対話を扱っている。Reading for communication では、落語の小話が紹介され、その中で日米の文化の違いや、よくある言語表現の使い方の間違いをテーマにしている。42ページでは、飲食店での注文の仕方についての日米の相違を、43ページでは“Excuse me.”と“I’m sorry.”の使い方の失敗談を取り上げている。言葉の学習では、意味の違いを理解することと同時に、場面や人間関係などによる使い方を理解することも必要である。「すみません。」という日本語には、注意を引いたり、謝ったり、お礼を言うときにも使うことができる便利な表現であるが、その多義性から、使い方の間違いが起きてしまうことが多い。普段何気なく使っている言葉の、正しい機能などについて考えさせるのに適した単元である。

言語材料としては、Starting out では<疑問詞 + to 不定詞>の表現を学ぶ。また、Dialog では、<It....for ~ to + 動詞の原形----->の文を学習する。身の回りの出来事について、自分や友達にとってはどうなのかなど、自己表現につなげやすい文型である。

Reading for communication は、特に新出文型もなく、既習事項を想起しながら落語の面白さを楽しむことのできる教材である。文章の構成に重要な働きをする接続詞や表現を豊かにする副詞、単語の多義性にも着目させることができる。

(2) 生徒の実態

素直で、協力的な生徒が多い。QU テストの結果からは、非承認群に属する生徒が多い集団であり、生徒間でのトラブルは少ないものの、生徒たちが自分たちの気持ちを表現できないという結果がでており、教師の観察と一致するところである。

英語の時間には、音読練習などには声をそろえて取り組むことができるものの、挙手することには消極的である。家庭学習量も少なく、定着に結びついていない。本文の視写と基本文や単語の練習を課しているが、主体的にはなかなかできない状況にある。

1学期末の定期テストでは80点以上得点できたものが6名いた一方、40点以下の生徒は7人にもなった。特に支援を必要とする生徒の数も他のクラスに比較して多く、なかには授業に参加する意欲をもたせることに困難を感じるものもいる。

また、昨年10月に行われた学習定着度状況調査の結果は以下のとおりである。英語の力の中でも、明らかに「読む」力が落ち込んでいることが読み取れる。

| | | | | |
|------|-----|------|------|------|
| 正答率 | 全体 | 聞くこと | 読むこと | 書くこと |
| 県平均 | 64% | 78% | 65% | 44% |
| 3年B組 | 58% | 77% | 53% | 44% |

3 単元の目標

(1) コミュニケーションに対する関心・意欲・態度

- ・ 本文の内容に興味・関心をもち、内容を理解しようと意欲的に読んでいる。
- ・ 場面に合った表現を考え、工夫しながら音読しようとしている。

(2) 表現の能力

- ・ 正確な発音や適切なイントネーションで本文を音読することができる。
- ・ 伝えたい内容を正確な表現を使って書き表すことができる。

(3) 理解の能力

- ・ 聞いたり読んだりした内容について、概要をつかむことができる。

(4) 言語や文化についての知識理解

- ・ how(what) to 不定詞や It is ... to 不定詞を含んだ英文の用法を理解し、適切に使用できる。
- ・ 国ごとの文化による違いや日英の言葉の使用法の違いなどを理解している。

4 単元の指導計画と評価 (総時間7時間)

| | 配当 時間 | コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 | 表現の能力 | 理解の能力 | 言語や文化についての 知識理解 |
|-------------------------------------|-------------|--|---|--|-------------------------------------|
| Starting Out | 1 時 間 | * 理解できないところがあっても、推測したり聞き返したりするなどして聞き続けている。 | | * 聞いた内容について正しく聞き取ることができる。 | * how(what) to 不定詞の用法を理解し、適切に使用できる。 |
| Dialogu e | 2 時 間 | * 間違えることを恐れず、役割練習に参加する。 | * 自分や友人のことについて伝えたい内容を正確な表現を使って言うことができる。 | | * It is ... to 不定詞を含んだ英文の構造を理解している。 |
| Reading for Commu nication | 2 時 間 | * 本文の内容に興味・関心をもち、内容を理解しようと意欲的に読んでいる。 | * 正確な発音や適切なイントネーションで本文を音読することができる。 | * 本文の概要を読み取ることができる。 | * 文化の違いや日英の言葉の使用法の違いなどを理解している。 |
| まとめと Listenin g plus | 1 時 間 | * 理解できないところがあっても、推測したりするなどして聞き続けている。 | | * 自然な口調で話されたり読まれたりした内容をメモを取って聞き取ることができる。 | |
| Your Turn と単 元テスト | 1 時 間 | * 分からない言葉をジェスチャーで補おうとする。 | | | * Unit4 で習った語や文を正確に書くことができる |

5 本時の指導について

(1) 本時の指導目標と評価

| 観点 | 本時の目標 | 具体的評価規準 (おおむね満足と判断される状況) | 努力を要する生徒の 指導の手立て |
|-----------|--------------------------------|---------------------------------|---|
| 理解の 能力 | 英語で語られる小話を読んで、内容を読み取ることができる。 | 本文の概要や作者の言いたいことを大体理解できる。 | ・黒板に単語を意図的に配置しながら、話の内容をつかませる。 |
| 表現の 能力 | 意味を考えながら、正確な発音やイントネーションで音読できる。 | ほぼ正確な発音やイントネーションで本文を音読することができる。 | ・語から語句や節、文へと段階的に練習する。 ・教え合いの場を設定する。 ・個別指導を行う。 |

(2) 本時の指導の構想

最初に、生徒の内容スキーマ(予備知識)の活性化を図り、興味関心を持たせたい。そのために、前時の学習内容を想起させ、落語に関する質問を英語で行うとともに、耳だけで聞き取れた単語からどのような内容かを予測させる。

次に、読み取りのポイントを与えて本文を黙読させる。さらに、教師が本文の語や語句を黒板に意図的に配列し意味地図を作るとともに、場面を考慮した音声表現やジェスチャアを加えながら、概要把握を進める。その後、文と文の関係を示す接続詞や表現内容を詳しく説明する副詞についても、意味地図に加えながら着目させる。分かったことをワークシートに記入させることで理解を確認する。

音読練習の段階では、本文への記号づけや日本語の意味を適宜与えることで、さらに理解を深めることができると考える。音声の表現力の育成も目指し、単語から文、文章レベルへと段階的に音読練習を行いたい。生徒同士での教え合う場もふだん通りに設け、情意面の育成も図りたいと考えている。

最後に、読み取りにおいて生徒は個々の文の意味は分かっているが、筆者や作者が何を言いたいのかという主題をつかめないでいることがあるので、質問により理解を確認する。また、概要把握で利用した意味地図をもとに、英文を再生させることに挑戦させることで、自分の理解の不十分さを意識させながらも、話す力を伸ばすことと、書く力への転移もめざしたいと考えている。

(3) 本時の展開

| 段階 | 時間 | 学習内容 | 指導上の留意点 | 評価 | 支援 |
|----|-----|---|--|----|----|
| 導入 | 8分 | 1 挨拶 2 Warm up QA 前時の想起・復習 3 学習課題の提示 オーラルイントロダクション 学習課題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 落語の小話を読み取ろう。 </div> | <ul style="list-style-type: none"> 英語学習の雰囲気醸し出すとともに、オーラルイントロダクションにつなげる。 落語についてのスキーマを活性化する。 (ここに移動しました) | | |
| 展開 | 37分 | 4 概要把握 CDを聞き、聞こえた語から内容を推測する。 読み取りのポイントの答えを黙読して探す。(scanning) 紙板書(意味地図)を見ながら本文を聞く。また、ワークシートに読み取りのポイントの答えを書き込む。内容理解の確認をする。 5 音読練習 新出単語の意味確認と発音練習 意味地図を見ながら発音練習 記号付けした文章を見て練習 バズリーディングで個人練習 CD とパラレル読み | <ul style="list-style-type: none"> 「レストラン・すみません・日本・アメリカ・注文」などが生徒から出ることを期待。 「レストランで注文する場面らしい」と推測させ、「日米の注文方法の違い」と「ビルさんはどうしているのか」という読み取りのポイントを与える。 で下位の生徒のためにジェスチャーや表情を加えることと、語を黒板に整理して提示すること(意味地図)で内容理解を助ける。ワークシートへの記入から、理解状況を確認。 | | |
| 終末 | 5分 | 6 まとめ 小話のテーマを考える。 意味地図から本文の再生をする。 7 評価 ・自己評価する。 8 次時の連絡と挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> 意味地図から、学習シートの本文を完成させる。再生(話す)することにも挑戦させる。 ワークシートに各自記入させる。 | | |